

エレガンスの社会学

その着なしに理由アリ

文 中野香織

第③回

男性のニュースキャスターの装いがほとんど華やかになっていく。

確かに、目が喜ばなければチャンネルを変えてしまう視聴者の視線をつなぎ留めるには、インパクトのある服の力を借りるのも手であろう。しかし、ニュースを伝える人は、娯楽番組のタレントとは一線を画す、誠実さや慎みを感じさせる装いであってほしいとも思う。目が喜ぶ、きまじめさ。視線を奪う、信頼感。視聴者の要求は、わがままである。

だがそこに、ぴたっと応える「新人」キャスターが現れた。村尾信尚さん。昨年10月にスタートした日本テレビ「NEWS ZERO」のメインキャスターである。元大蔵省に入省、総務部長として出向した

村尾氏の装いに“目立って、言葉が押し売りする”という感じはない。清廉なストライプに嫌みのないチーフ。このシンプルなスタイルが、自身をそのまま表している好印象。言葉がスッと、視聴者に浸透していく。「NEWS ZERO」は日本テレビ系で毎週月～木曜22時54分～23時55分、金曜23時30分～24時25分

三重県で県政にかかわり、「生活者視点」の行政改革に取り組んで名を上げた。その後、霞が関に辞表を提出し退職金1480万円を選挙資金に、三重県の知事選に無党派として出馬した経験をもつ。現在は関西学院大学教授でもあり、キャスターは初挑戦という51歳である。

番組のスタジオ自体は、それ以前に半世紀続いていた「きょうの出来事」の落ち着いたイメージと比べれば、ポップでにぎやか。各曜日キャスターも、若くて明るい。そんな中であって、沈むことなく、信頼の視線を集めなければならぬという難しいアンカー役には、村尾さんは果敢に挑戦している。装いは、チェック厳しめ本誌編集者諸兄にも「うまいなあ」と感嘆させるほど。そんなキャスター村尾の装いは、どのような物語を秘めているのか。お話を伺いに行く。

「男は中身だ」と長い間思っていたという村尾さんは、なんと、この番組に出演することになって生まれて初めてポケットチーフを差した。「スタイリストさんに、やれと言われて(笑)。まさか胸にチーフを入れる日がくるなんて思わず、すっごく、恥ずかしかった。」

とはいえ、服装の重要性は、いやというほど意識している。目覚めるきっかけになったのは、「知事選挙で大負けしたこと」だった。「公正な社会を実現したい、という強い思いをもって役人を辞めて選挙に出たのですが、僕の考えをできるだけ多くの人に好印象をもって聞いてもらうためには、見た目も極めて重要だと気づいたんです」

語りたい思想があり、聞いてほしい哲学がある。なのに、「見てくれ」で拒絶反応を起こされると、届くも

キャスター村尾信尚の言葉を支える、等身大の装い

のも届かない。話の中身は必要条件、装いも含めた外観は中身に抵抗なく入ってきてもらうための十分条件、と村尾さんは思い知るに至る。

「世の中に対する怒りや、訴えたいことなど、熱い思いがずっとコアにあるんです。そこに入ってきてもらうためには、服装でハードルを低くすることも大事なことでとわかりました」

実際、今の番組に寄せられる視聴者からのメールが、ほとんど装いに関するものだという。「ポケットチーフとネクタイに注目しています」とか「メガネのほうがよかったです」とか「もっと僕の話の内容を聞いてくれ!」とは思いますが」と村尾さんは苦笑する。

見た目が視聴者にとって大きな意味をもつことはわかった。でも、村尾さんは「自分におしゃれ」を試すことはけっしてない。「流行は取り入れつつも、どんな世代の人が見ても不快にならないようにしている」というスタイリストの小笠原靖子さんの提案を、基本的には受け入れる村尾さんだが、多色使いなど、「僕のリズムには合わない」と感じたものは拒否する。カフリンクスすら断ることも多いし、腕時計は「ライフスタイルなどを読まれる」と聞いて、つけるのをやめた。ポケットチーフがぎりぎりの限界。それ以上の装飾には、手を出さない。

「だって、50年も生きていますから、背伸びしても見透かされますから(笑)。例えば川原重矢さんと知花くららさんという背の高い女性二人の間に立たなくてはならないときも、シークレットブーツを履くなどの「背伸び」はしない。「3人の頭のラインがV字形になっちゃって、なにもそこまで僕を見せ物にしないで」と思

うんだけど(笑)。でも僕はこれだけの背丈の男なんだということとありのまま見てもらうほうがいい。自分をホント以上のものに見せるようなことは、したくないんです」

目を楽しませることは意識しつつ、背伸びには走らない。等身大を潔くわきまえたこの抑制加減が、視聴者の目には「信頼感」として映るのかもしれないですね?

「本番までの綿密な下調べ、僕の言葉、経歴、そしてネクタイやポケットチーフの色など、すべてがジグソーパズルのように揃って信頼感につながるんだと思います」とキャスターらしく、まとめてくれた。

ファッションは門外漢、と照れる村尾さんだが、好みはむしろんあつて、その一つがストライプ柄。番組でもよく着ている。実は、お会いする前にはストライプ巧者で有名なCNNの名物キャスター、アンダーソン・クーパーを意識しているのかなとも想像していた。「ピンストライトの起源は帳簿の罫線なんです。それで金融街シテイでは制服のように着られて」と信頼柄としての伝統を話すと、「そうだったんですか!」僕のストライプ好きの起源は、タイガースのユニフォームでした」と大まじめに返されたのでした。

Kaori Nakano

服飾史家。人に来て、話を聞き、そして書くのがライフワーク。UOMOが提唱するエレガンスを、毎回人物を切り口にすしてわかりやすくひもときます。「朝日新聞」「Openers(ウェブマガジン)」「日本経済新聞」など連載多数。最新刊は「着るものがない!」(新潮社)。